

平成30年度

事業報告

社会福祉法人あまくさ福祉会

○地域生活支援センターグリーン

- ・ 指定特定相談支援事業
- ・ 生計困難者レスキュー事業
- ・ 自立訓練(生活訓練)事業
- ・ 生活介護事業

○就労サポートセンターぴ～す

- ・ 就労継続支援A型事業
- ・ 就労継続支援B型事業

○グリーントポス

- ・ 外部サービス利用型共同生活援助

平成30年度 指定特定相談支援事業報告

【1】概況

指定特定相談支援事業者として障がい児者自身が望む自立した社会生活を支えることを目的とし、抱える課題の解決を行い、本人に合った適切なサービスが利用できるよう計画を作成している。また、一人ひとりの特性にあったサービスが提供されているか、他に課題はないかなど定期的にモニタリングを行っている。

並行して、必要に応じて医療関係者、学校関係者、各事業所、地域の保健師や保健所等関係機関や専門機関と連携し、障がい児者の意思や人格を尊重し地域で生活していくための相談・支援も行っている。

【2】相談受け入れ実績

(1) 計画相談作成及びモニタリング件数

※計画書作成とモニタリング実施の請求数(件数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成	0	4	6	4	8	5	3	4	5	3	5	10	57
モニタリング	19	11	11	14	3	14	6	11	10	14	12	16	141
H30計	19	15	17	18	11	19	9	15	14	17	17	26	198

(2) 支援方法 <のべ人数>

訪問相談	来所相談	同行支援	電話相談	個別ケア会議	関係機関調整	その他	合計
152	70	75	498	65	290	2	1,152

(3) 支援内容 <のべ人数>

支援内容	件数	支援内容	件数
福祉サービスの利用に関する支援	244	家計・経済に関する支援	61
社会資源の活用に関する支援	152	生活技術に関する支援	22
障がいや病状の理解に関する支援	27	就労に関する支援	48
健康・医療に関する支援	162	社会参加に関する支援	0
不安の解消・情緒安定に関する支援	162	余暇活動に関する支援	0
保育・教育に関する支援	7	権利擁護に関する支援	22
家族関係・人間関係に関する支援	243	その他福祉に関する支援	2
		合計	1,152

(4) 障がい別利用者 <実人数>

	知的	身体	精神	発達	難病	その他	計
障がい者	6	1	71	2	0	3	83
障がい児	0	0	0	0	0	0	0

【3】相談の現状

- ①発達障がいへの相談が増え続けており、特に成人の相談が顕著に増えている。
- ②障がいの種別のとらわれない相談があり、課題が複雑化していることが多く、力量が求められる。
- ③当事者・家族からの相談だけでなく地域や事業所からの相談も増えた。
- ④精神的不安を訴える相談に長時間を要する事が常となっている。

〈相談をとおして見えてきた課題〉

- ①ベースに経済困窮があることで当事者・家族間支援がより複雑化している。
- ②発達障がい児・者の相談が増えてきている中、それぞれのライフステージでの相談に対応出来る様に幅広い知識が求められている。また、成人の場合は診断機関が少なく、ひきこもり、病識のない人の支援で、家族が困っているケースの介入が困難である。
- ③高齢障がい者のケアマネジメントをする事が多くなり、関係機関との連携が必要となっている。また、介護保険と併用するケースの整理を行う事が年に数件ある。
- ④居宅介護や同行援護等のヘルパーの手配が、ヘルパー不足や事業所不足のため確保が難しい。

〈課題解決のために必要なこと〉

- ①家族間で重複した課題を抱えているケース等、高齢者生活支援センターや家庭児童相談員、生活困窮者自立相談支援員など関係機関との連携を強め問題解決を図る。
- ②相談員の資質向上のために専門性を高める研修に参加する。また、知識を深めながらも成人の発達障がいの検査・診断が可能な社会資源についての情報収集を行う。
- ③フォーマル・インフォーマルを問わない地域の社会資源を知り活用する。また、新たな社会資源の開発に努める。
- ④介護保険サービスのみを行っているヘルパー事業所に対して障がい福祉分野への参入のきっかけとなるような周知・啓発を行う。

平成30年度 生計困難者レスキュー事業報告

【1】目的

- ・ 社会福祉法人の社会貢献活動として、生計困難者への心理的不安の軽減や公的な制度やサービス等への橋渡しを行う事を目的に、生計困難者に対する相談・支援事業を実施
- ・ 支援事業として、生計困難者が公的な制度やサービスなどを受けられようになるまでの間、必要に応じて生活必需品の給付、一時的な住まいや食事提供等の経済的援助を実施

【2】事業の特徴

- (1) 事業を実施する法人の施設にコミュニティソーシャルワーカー(CSW)を配置
- (2) 県・市の福祉事務所など公的機関や市町村社協、民児協等と連携し重層的な支援体制の構築を目指す
- (3) 対象者を限定せず、すべての生計困難者を対象とする
- (4) 施設に総合相談窓口を開設し、生計困難者の生活課題に対応する
- (5) 必要に応じて経済的援助をおこなう。現金給付ではなく、担当のCSWが買い物や支払に同行するなどして現物給付で行う

【3】レスキュー事業の実施状況

※平成31年3月31日現在

(1) 支援実施状況

1) 支援受付報告書提出	14	件		
2) 支援終了記録提出	14	件		
3) 基金支払請求	14	件	計	146,532 円
4) 支援継続中	0	件		

(2) 支援内容集計表

月別相談 受付件数		対象者 年代別		対象者 男女別	
4月	1件	20代	0	男	8
5月	1件	30代	1	女	6
6月	0件	40代	5	計	14
7月	2件	50代	4		
8月	1件	60代	3		
9月	2件	70代	1		
10月	1件	80代	0		
11月	2件	計	14		
12月	0件				
1月	1件				
2月	2件				
3月	1件				
計	14件				

対象者 平均年齢	平均 支援期間	平均 訪問回数	平均 同行支援回数	基金 支払総額	平均 基金支払額
53.3歳	11.4日	2.7回	2.1回	146,532円	10,467円

当法人では平成27年から本事業に取り組んでおり過去3年間において県内では上位3番目に多い経済的援助件数で天草圏域においても一番の実施数となっている。その経験数を見込まれてか県外の社協・民生委員児童委員の研修にも取り込まれ本事業の実施報告等を行っている。支援の事例としては引きこもりの子ども二人を抱え借金を繰り返す世帯への支援や入院費・税金等の滞納がある高齢者夫婦世帯への支援など経済困窮の形は様々である。これにより、本事業が地域の隠れた支援のニーズの掘り起しに役立っていることが分かる。本事業に携わり見えてきたことは風土の影響もあるのか相談窓口の敷居が高いとか世間体が気になるなど相談窓口に繋がらない実態があるということ。施策の狭間で支援を受ける事が出来ず見えない貧困で苦しむ方々がまだまだ多い。敷居を低く当事者及び地域から相談しやすい窓口を目指していきたい。そして「困っている理由」を掘り起し、次の継続的な支援に繋げていきたい。

**発見
連絡**

援護を必要とする方を発見し、連絡します

生計困難者は、「SOS」を発することができないことが多いものです。老人福祉施設は、地域の民生委員・児童委員、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター、社会福祉施設、福祉事務所等と協力して援助を必要とする方の発見につとめます。

**訪問
相談**

行って、見て、聞いて状況を把握します

コミュニティソーシャルワーカーや、社会貢献支援員が本人の住まいを訪問して状況を確認します。

**制度
検討**

適用できる既存制度がないか検討します

生活保護や介護保険、成年後見制度、生活福祉資金等貸付、日常生活自立支援事業などの制度が使えるかを検討します。

相談

制度につなぎます

既存の制度がある場合は制度につなぐなどし、ない場合は、援助の方法を検討し、訪問・相談するなどして問題解決に努めます。

**経済
援助**

経済的援助を検討します

どの制度も適用できない、あるいは緊急を要する場合、医療費、介護サービス費、成年後見人を定める費用、その他生活に必要なサービス費あるいは、10万円までの現物支給によって援助が行われます。

見守り

継続的に見守ります

本人の生活の自立を目標に継続的に見守り、相談などを行います。

自立訓練(生活訓練)事業 事業報告

【1】施設名

地域生活支援センターグリーン

【2】目的

知的障害または精神障害のある方に対して、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所または障害のある方の居宅において、入浴、排せつ、食事等に関する自立した日常生活を営むために必要な訓練、生活等に関する相談および助言などの支援を目的とする。

【3】利用定員

10名（平成31年3月31日時 登録11名）平成30年度新規利用者4名

【4】利用者情報

性別 \ 年齢	18歳～20歳	21歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳
男性	0名	0名	0名	2名	1名	3名	0名
女性	0名	0名	0名	1名	2名	2名	0名

【5】職員配置

職名	職員配置	
	専任	兼務
管理者		1名
サービス管理責任者		1名
生活支援員	1名	
生活支援員(訪問兼務)	1名	

【6】利用期間

原則2年間(1年延長可)

【7】事業内容

(1) 個別支援計画

- ①本人の意向に沿った計画を個別に立てて実施する。
- ②個別支援計画に策定時には必ずサービス管理責任者を中心にサービス提供職員と担当者会議を開催し支援の方向性を共有する。
- ③一か月に一回モニタリングを行い個別支援計画が適正に遂行されているかを確認する。

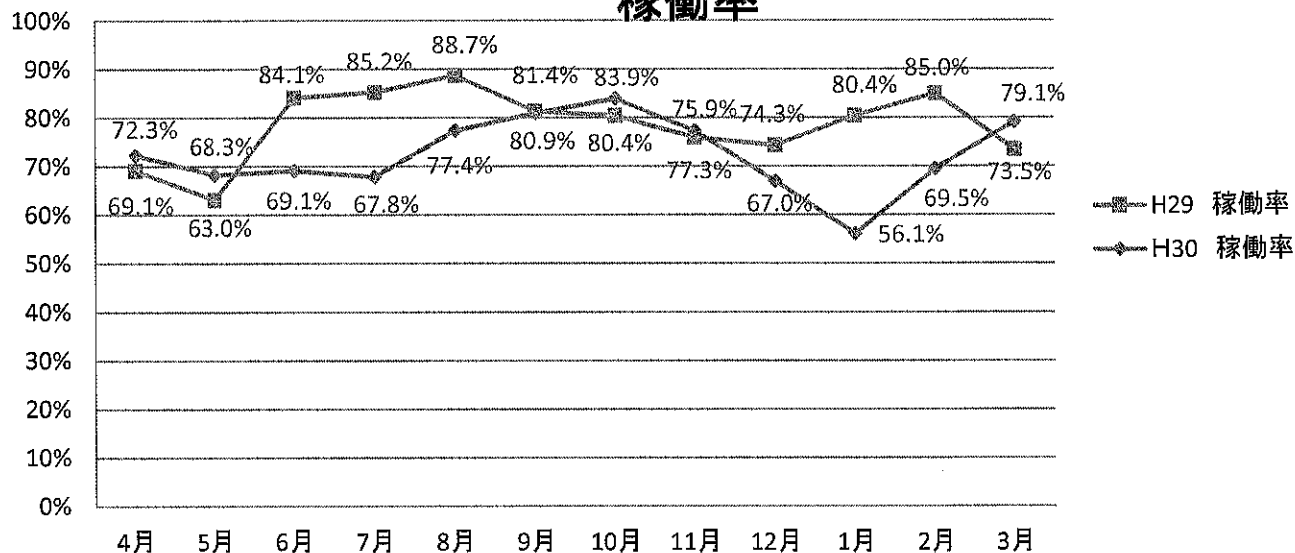
(2) 訓練プログラム

プログラム内容	結果	主な活動内容
健康管理	127回	スポーツ全般、バイタル測定、頭の体操等
コミュニケーション	34回	コミュニケーションゲーム、座談会、カラオケ等
調理・栄養管理	45回	調理、栄養講座等
金銭管理	12回	金銭出納帳の確認、次月の予算立て等
社会資源活用	21回	公共機関の利用、福祉サービスの利用について等
就労支援	83回	ボランティア活動、パソコン講座、掃除等
文化・芸術	81回	創作活動、ガーデニング等
生活支援	45回	衛生面での指導、病気の予防に関する勉強会等
個別支援	47回	モニタリング、金銭計画、相談等
フリー	54回	自主活動、買い物等
その他の行事・活動	35回	グリーンフェスタ、スポーツ交流会等
合計	584回	

【8】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用回数	159	157	152	156	178	178	193	170	154	185	139	182	
稼働日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	72.4%
稼働率	72.3%	68.3%	69.1%	67.8%	77.4%	80.9%	83.9%	77.3%	67.0%	56.1%	69.5%	79.1%	
登録人数	9	9	9	9	11	11	10	9	9	8	9	11	10

稼働率



【9】平成30年度の振り返り

前年度の稼働率(平均78.4%)に比べ今年度の平均は72.4%と低下する結果となった。

原因としては30年度4月スタート時は9名が利用されていたが、8月には2名増員があり、11月までの平均は74.6%(前年度75.9%)と推移していたが12月より翌年2月までに2名減、一人が入院となり平均値の低下につながった。次年度では、出席日を増やすため利用者の気持ちを受け止め、興味あるプログラム内容の提供をし、一人一人のニーズに沿いながら、就労、自立に対して前向きになれる様な支援を目指して行きたい。次年度は今年度の反省点を真摯に受け止め改善するべくこれまで以上に利用者一人一人に寄り添い自立につながる支援を行っていきたい。

【10】研修・勉強会参加実績

- ・第38回精神保健福祉会 天草地域家族会 講演会
「振り込め詐欺の現状～対応:対策～」
- ・天草こころの健康づくりの集い
「災害と心のケア～レジリエンスを高める～」
- ・第48回熊本県精神障がい者家族大会
「人はなぜ病を得るのか～見えるものと見ない者の行方～」
「熊本県の精神科救急医療体制について」

生活介護事業 事業報告

【1】サービス内容

常に介護を必要とする方に対して、主に昼間において、入浴・排せつ・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行います。

【2】対象者

地域や入所施設において、安定した生活を営むため、常時介護等の支援が必要な方で次に該当する方

- (1) 障害支援区分が区分3(障害者支援施設に入所する場合は区分4)以上
- (2) 年齢が50歳以上の場合は、障害支援区分が区分2(障害者支援施設に入所する場合は区分3)以上
- (3) 障害者支援施設に入所する方であって障害支援区分が区分4(50歳以上の場合は区分3)より低い方のうち、指定特定 相談支援事業者によるサービス等利用計画案の作成の手続きを経た上で、市区町村が利用の組み合わせの必要性を認めた方

※ (3)の方のうち以下の方については、原則、平成24年4月以降の支給決定の更新時にサービス等利用計画案の作成を行なった上で、引き続き、生活介護を利用することができます。

- ・法の施行時の身体・知的の旧法施設(通所施設も含む)の利用者(特定旧法受給者)
- ・法の施行時に旧法施設に入所し、継続して入所している方
- ・平成24年4月の児童福祉法改正の施行の際に障害児施設(指定医療機関を含む)に入所している方

【3】施設概要

施設名称 地域生活支援センターグリーン
所在地 天草市佐伊津町401番5
定員 20名(平成31年3月31日時 登録14名)
管理者 長山 直仁

【4】運営方針

1. 利用者が自立した生活、又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排泄及び食事の介護・創作活動の機会の提供・日常生活能力の維持、向上のための支援を行います。
2. 事業所の実施にあたっては地域との結びつきを重視し、市町村・他の福祉サービス等と密接な連携を図るよう努めます。

【5】事業目標

- ① 職員が一丸となり、達成感や自信を引き出せるよう支援を行う。
- ② 温かい心のこもった関わり、介護ができるように努める。
- ③ 利用者が安心して通所できるよう、常に安全で明るく清潔な環境を作り、職員と利用者が信頼し合える家庭的な環境づくりに努める。
- ④ 施設内での勉強会や各種研修等に参加し、知識、技術の向上に努め、自信と信頼をもちまた、統一した支援・質の高い支援ができるように努める。
- ⑤ 趣味やレクリエーション、創作活動等を通して日中活動の充実を図り、自分のもてる持てる強みが発揮できるように努める。
- ⑥ 利用者一人ひとりの生活・障がいの状態をよく理解した上で、利用者本人が自己決定できるよう利用者中心の支援を行う。

【6】活動内容

(1) 日中活動

活動内容	主な活動内容
健康管理	体重測定、エアロビクス、散歩等、いきいき体操、ペダル漕ぎ運動
創作活動	干し柿作り、貼り絵、ぬり絵、ビーズでの小物制作
趣味活動	山菜採り、書道、パソコン、散歩
社会資源活用	温泉、ショッピング、地域の行事参加
調理	料理教室(お弁当作り)、おやつ作り(誕生日会)
レクリエーション	ピクニック、カラオケ、茶話会、季節行事、地域イベント
個別支援	予定確認、金銭計画、常時相談等
その他の行事・活動	グリーンフェスタ、スポーツ交流会、講演会等

(2)年間行事報告

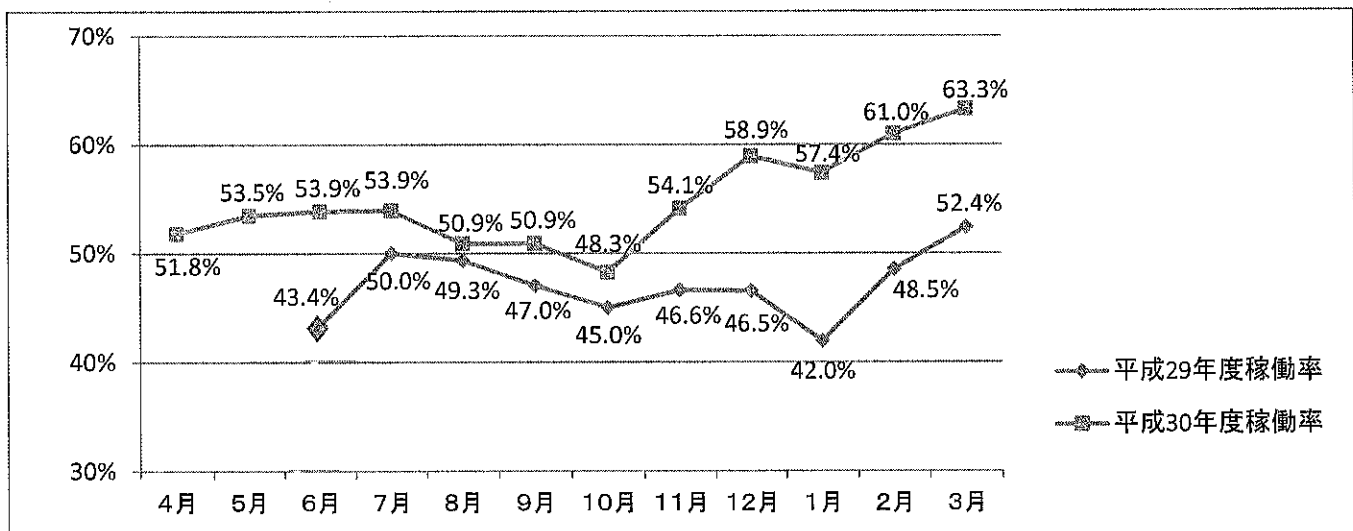
4月	お花見、山菜(ツワ)採り	月例行事 ・誕生日会(随時) ・DVD鑑賞会(随時) ・カラオケ(随時) ・外出行事(随時)
5月	果実狩り	
6月	避難訓練	
7月	七夕、海水浴ドライブ	
8月	日帰り旅行	
9月	グリーンフェスタ、BBQ	
10月	ふれあいピック、公園でスポーツ	
11月	紅葉狩り&ふるさと巡り	
12月	クリスマス会、大掃除、忘年茶話会	
1月	初詣、鏡開き、松島ドライブ(菜の花)	
2月	節分(豆まき)・女性利用者お菓子作り(バレンタインデー)	
3月	ひな祭り・男性お菓子作り(ホワイトデー)	

【7】利用者情報

性別 \ 年齢	21歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳～89歳
男性	0名	0名	0名	1名	5名	1名	0名
女性	0名	0名	0名	1名	3名	2名	1名

【8】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	228	246	237	246	234	224	222	238	271	264	244	291
稼働日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23
稼働率	51.8%	53.5%	53.9%	53.5%	50.9%	50.9%	48.3%	54.1%	58.9%	57.4%	61.0%	63.3%
登録者数	12	12	12	12	12	13	13	15	15	15	14	14



【9】平成30年度の振り返り

- ・登録人数は14人と増加してきているが、新規利用者獲得の取り組みがあまりできなかった。
- ・利用者一人ひとりのできる事を把握し働きかけを行ったことで、個人に合った道具や環境での活動につなげることが出来た。少しずつでも利用者のできる活動を増やし、ADLの維持を図るとともに、本人の希望や目標を実現できるよう今後も活動内容を工夫していく必要がある。
- ・干し柿作りや焼き芋体験など本年度初めて行う活動も、利用者の得意や興味を引き出すとともに季節を肌で感じてもらえる活動となった。次年度は、より一層利用者の興味を引き出しつつ、活動量の増加につながるプログラムを利用者と共に考えて実施していきたい。

就労継続支援A型

【1】施設の名称

就労サポートセンターぴ～す

【2】目的

作業能力は高いが、一般企業に雇用される事が困難な障がい者の方で、適切な支援・雇用契約等に基づき就労して頂き、生産活動その他の活動の提供、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、その他必要な支援を行う。

【3】利用対象となられる障がい者の方

生活リズム、金銭管理、服薬管理、食生活、協調性がある程度身につけておられ、就労を継続して行うことが可能な障がい者の方

【4】作業内容

・製麺(うどん製造・販売) ・グリーンパーク ・委託農作業

【5】利用定員

・10名(平成31年3月31日登録3名)

【6】利用期間その他

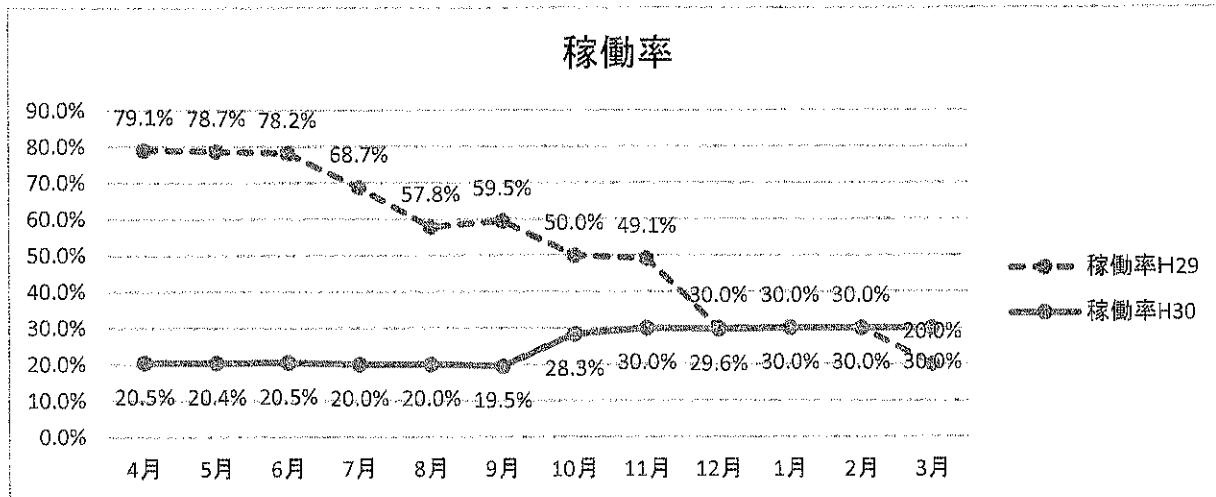
利用期間の定めなし。(原則65歳未満)

【7】販売会

期 日	販 売 会 名 称	販 売 場 所
平成30年5月20日	くまもと障がい者スポーツ大会販売会	えがお健康健康スタジアム
平成30年5月29日	天草地域家族会販売	天草広域本部(天草地域振興局)2階
平成30年6月23日9.10日(計4日間)	第14回天草花しょうぶ祭り	西の久保公園
平成30年6月22日	精神保健福祉連絡協議会	天草広域本部(天草地域振興局)2階
平成30年8月24日	酒井病院夏祭り	酒井病院
平成30年10月14日	天草支援学校であいふれあいフェスタ	天草支援学校内
平成30年10月21日	酒井病院文化祭	酒井病院
平成30年10月27日	ゆうすい祭	ゆうすい
平成30年10月28日	あまくさ福祉まつり	天草市民センター
平成30年11月23日	こすもす秋の大感謝祭	こすもす園
平成30年12月12日	こころの健康づくりの集い販売会	天草中央保健センター(天草市)
平成31年1月18日	H30年度障がい者福祉施設商品展示・商談会	熊本県庁
平成31年2月7日	天草地域家族会販売	天草広域本部(天草地域振興局)2階
平成31年2月16日	天草つんのでフェスタ	天草市民センター

【8】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者人数	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3	33
利用日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
延人数	44	46	44	46	46	43	69	66	69	69	60	68	670
延時間	171	197	189	195	180	175	303	294	293	279	238	261	2775
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率H29	79.1%	78.7%	78.2%	68.7%	57.8%	59.5%	50.0%	49.1%	30.0%	30.0%	30.0%	20.0%	52.6%
稼働率H30	20.5%	20.4%	20.5%	20.0%	20.0%	19.5%	28.3%	30.0%	29.6%	30.0%	30.0%	30.0%	24.9%



【9】 月別売上

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	製麺売上	年間売上
売上	¥63,517	¥78,958	¥136,012	¥501,426	¥316,354	¥93,428	¥2,784,818	¥2,986,618
GP等	¥30,450	¥46,550	¥30,450	¥30,450	¥30,450	¥30,450		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	GP売上	
売上	¥208,173	¥192,500	¥768,112	¥102,349	¥144,684	¥179,305	¥201,800	
GP等	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥3,000		

※H30年度 製麺売上: ¥2,784,818 GP等売上: ¥201,800 ⇒ 計 ¥2,986,618

【10】 H30年度振り返り

30年度は利用者2名から始まり、10月に新規で1名入所された。利用者3名は一年間を通して気分・体調不良などで休まれる事も少なかったが3名である事から稼働率は20%～30%となった。主な作業内容は製麺と施設外就労(グリーンパーク)であったが、作業工程を覚えたり効率を考えながら状況に合わせて作業できていた。売上については前年度比で減少となった。製麺売上は大きな変動はなかったが、グリーンパークが9月までであった事により収入減となり年間売り上げは減少となった。来年度からは施設外就労が新たに始まるので製麺と両立しながら売上・収入を伸ばしていきたいと思う。今年度利用者は一般就労に繋がったケースはなかったが、来年度は全員が一般就労を目標として高い意識を持っていただきながら日々の就労ができるように支援していきたいと思います。

【11】研修会等

- ・はたらくNIPPON計画 A型フォーラムin熊本
- ・刈払機取り扱い作業教育

【12】 商品取扱店

- ・ミナクルショップ明日香
- ・ユメール
- ・とれたて市場
- ・藍の村観光株式会社
- ・サイバーレコード
- ・海鮮蔵
- ・リップルランド
- ・直売所わかみや
- ・ペルラの湯舟
- ・いけす料理やまもと
- ・居酒屋あまくさ村
- ・ビーフヤヒロ
- ・有限会社明成
- ・うどんの店野の花
- ・海女ちゃん食堂 乙姫屋
- ・HAND MADE(喫茶・軽食)

就労継続支援B型

【1】施設の名称

就労サポートセンターぴ〜す(平成25年5月1日開設)

【2】目的

障がいのある方が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう支援する為、委託による農作業・訓練・創作活動・生産活動を行い、心のリフレッシュを図ると共に自らの自立心を向上できる為の支援を行います。
このサービスを通じて生産活動や就労に必要な知識や能力が高まった方は、就労継続支援(A型)や一般就労への移行を目指します。

【3】利用対象となられる障がい者の方

就労移行支援事業等を利用したが一般企業等に結びつかない方や、一定年齢に達している方などであって、就労機会等を通じ、生産活動にかかる知識及び能力の向上や維持が期待される方

- ① 企業等や就労継続支援事業(A型)での就労経験があるものであって、年齢や体力の面で雇用される事が困難となった者
- ② 50歳に達している者または障害基礎年金1級受給者
- ③ ①及び②に該当しない者であって、就労移行支援事業者によるアセスメントにより就労面に係る課題等の把握が行われている者

【4】作業内容

クラフト製品の制作・販売
除草作業(一般家屋周り・公園・公共施設等)、その他
小川水産(ふぐのひれ干し、選別、袋詰め等)
社会福祉協議会(墓地清掃管理サービス業務)・・・H31年1月開始
グリーンパーク場(球拾い作業)・・・H30年10月終了
みつのぶ農園(ミニトマト作業全般)・・・H30年6月終了

【5】利用定員

20名(平成31年3月31日時、登録17名)

【6】利用期間その他

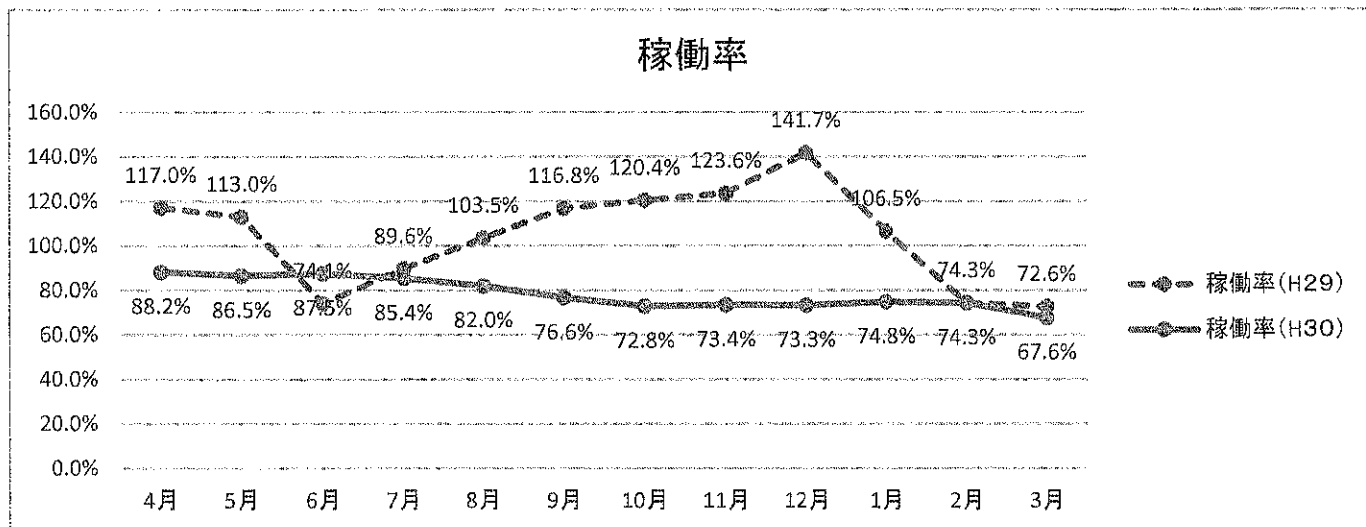
利用期間の定めなし

【7】販売会

期 日	販 売 会 名 称	販 売 場 所
平成30年5月20日	くまもと障がい者スポーツ大会販売会	えがお健康スタジアム
平成30年5月29日	天草地域家会販売	天草広域本部(天草地域振興局2階)
平成30年6月23日9.10日	第14回天草花しょうぶまつり	西の久保公園
平成30年6月22日	精神保健福祉連絡協議会	天草広域本部(天草地域振興職2階)
平成30年8月24日	酒井病院夏祭り	酒井病院
平成30年10月14日	天草支援学校であいふれあいフェスタ	天草支援学校内
平成30年10月21日	酒井病院文化祭	酒井病院
平成30年10月27日	ゆうすい祭	ゆうすいの里
平成30年10月28日	あまくさ福祉まつり	天草市民センター
平成30年11月23日	こすもす秋の大感謝祭	こすもす園
平成30年12月12日	こころの健康づくりの集い販売会	天草中央保健センター(天草市)
平成31年1月18日	H30年度障がい者福祉施設商品展示・商談会	熊本県庁
平成31年2月7日	平成30年度九州ブロック家族会精神保健推進活動研修会 パザール	KKRホテル熊本1階「有明・不知火」
平成31年2月16日	2019天つのでフェスタ(天草地域福祉施設製品販売会)	天草市民センター

【8】 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均稼働率
利用回数	388	398	385	33	377	337	335	323	337	344	297	311	
可能日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
稼働率(H29)	117.0%	113.0%	74.1%	89.6%	103.5%	116.8%	120.4%	123.6%	141.7%	106.5%	74.3%	72.6%	104.4%
稼働率(H30)	88.2%	86.5%	87.5%	85.4%	82.0%	76.6%	72.8%	73.4%	73.3%	74.8%	74.3%	67.6%	78.5%



【9】

月別売上

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間売上
売上	¥287,470	¥369,590	¥234,330	¥226,130	¥370,370	¥247,260	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	¥2,761,287
売上	¥203,460	¥87,620	¥185,075	¥186,940	¥202,840	¥160,202	

【10】H30年度振り返り

8月より稼働率が減少傾向にある。利用者の一般就労・A型事業所への移行による退職と、利用者の入院や体調不良による出勤率の低下によるものだと考えられる。特に季節の変わり目には体調を崩し、長期に渡って静養が必要な利用者も多く見られた。今後は、医療機関やご家族との連携を密に、利用者の体調の変化にすぐ対応し、不調が長引かず安定した就労ができるように支援していきたい。また、一般就労やA型移行した利用者に対してのフォローアップも視野に入れて、移行後の仕事や環境に定着して行けるように支援も行っていきたい。売上げに関しては、6月のみつのぶ農園での作業終了と、10月にグリーンパーク閉店による施設外就労先の減少が、収入減の大きな要因になっている。除草作業や墓地清掃等の委託作業の広告活動として、地域の方への情報発信をチラシや広報誌等を通して積極的に行っていきたい。収入増につなげていきたい。

【11】

研修会等

- ・サービス管理責任者研修会
- ・刈払機取扱作業教育
- ・熊本県南部発達障がい者支援センターわらつ 連続講座
- ・平成30年度 天草地域自立支援協議会講演会

【12】商品取扱店

- ・ユメール(天草市五和町)
- ・とれたて市場(天草市瀬戸町)
- ・道の駅有明物産館(天草市有明町)
- ・直売所わかみや(天草市五和町)
- ・ウェルパルクまもと(熊本市中央区大江5丁目1-1)

外部サービス利用型共同生活援助事業 事業報告

【1】施設名

グリーントポス

【2】目的

地域の共同生活住居において、家事・食事・相談など日常生活上の援助を行い、入居者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営む事が出来るよう支援を行う

【3】利用定員

10名（平成31年3月31日時 登録10名）平成30年度：退所者2名（自立2名）、新規利用者2名

【4】利用対象者

1. 一定程度の自活能力のある知的・精神障がい者の方
2. 通院医療を継続している精神障がい者の方
3. 日中に就労又は就労継続支援等のサービスを利用している知的・精神障がい者の方

【5】利用期間

定めなし

【6】事業内容

(1) 個別支援計画

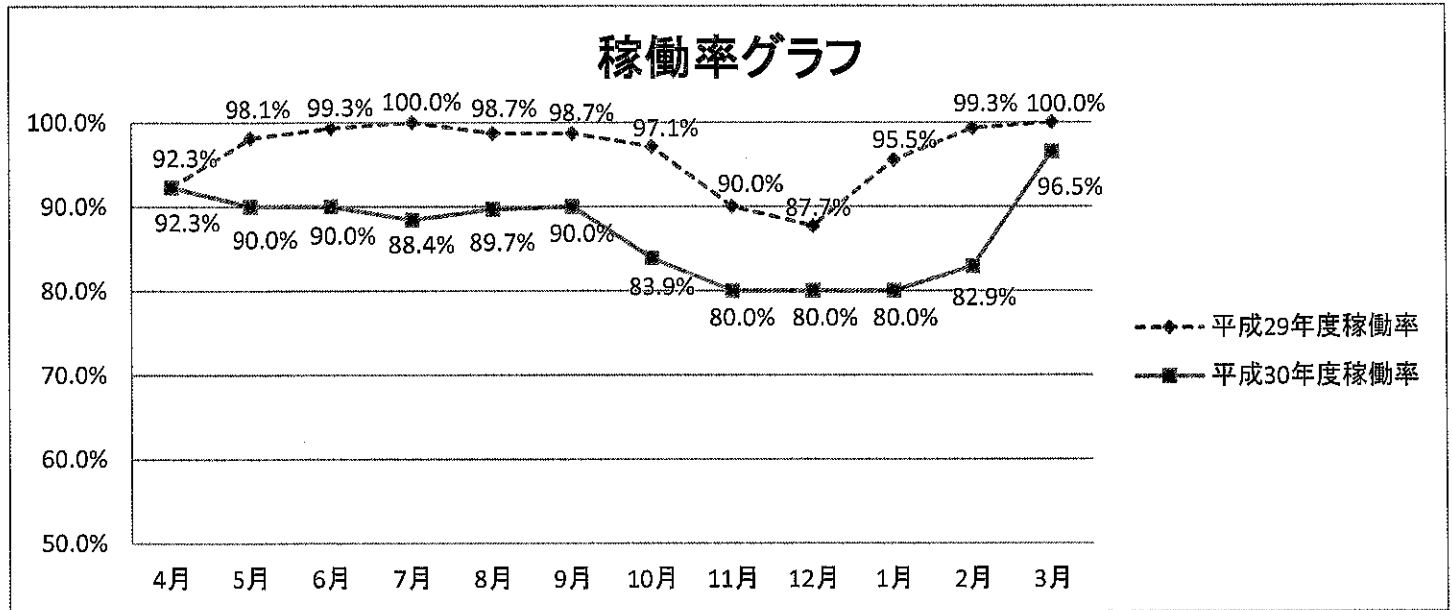
- ① 本人の意向に沿った計画を個別に立てて実施する。
- ② 個別支援計画策定時には必ずサービス管理責任者を中心にサービス提供職員とカンファレンス会議を開催し支援の方向性を共有する。
- ③ 3ヶ月に1回モニタリングを行い個別支援計画が適正に行われているかを確認する。

(2) 支援内容

- ① 食事の支援
 - * 栄養のバランス、入居者の身体の状況などに配慮した食事提供の支援を行う
- ② 健康管理
 - * 入居者の健康管理に気を配り、入居者の状況に応じて受診同行等行う。また入居者の方の年齢に応じて、地域の健診、予防接種、健康相談を積極的に働きかけ実施していく。
- ③ 日常生活上の支援
 - * 社会で生活していく上で必要な知識（洗濯、清掃、整理整頓、着脱衣等）やマナーを身につけてもらうための支援を行う。
- ④ 日中活動支援
 - * 入居者が安心・安定して日中活動が行えるよう日中活動先との連絡調整を行う。
- ⑤ 金銭管理
 - * 必要に応じて入居者の預貯金の管理を行い、お金の使い方に対する指導・助言を行う。
- ⑥ 服薬管理
 - * 服薬の重要性を理解して頂き、必要に応じて入居者の服薬を管理し、処方に沿った服薬ができるよう指導・助言を行う。
 - * 地域の薬剤師と連携、入居者が気軽に薬の相談が出来る環境を整える
 - * 服薬管理を希望する入居者への支援
- ⑦ 相談及び援助
 - * 入居者及び入居者のご家族からの相談に応じ、内容に沿った支援を行う。
- ⑧ コミュニケーションの支援
 - * 人との付き合い方を学ぶための支援を行い、入居者同士協調性を持って生活して頂く
- ⑨ 緊急時の対応
 - * 緊急時の対応窓口、施設防災対応として夜間宿直者の配置

【7】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用回数	277	279	270	274	278	270	260	240	248	248	232	299	
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	
稼働率	92.3%	90.0%	90.0%	88.4%	89.7%	90.0%	83.9%	80.0%	80.0%	80.0%	82.9%	96.5%	87.0%



【8】入居者情報

年齢 性別	18歳～20歳	21歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳
男性	0名	0名	0名	1名	3名	3名	0名
女性	0名	0名	0名	0名	0名	1名	2名

【9】日中福祉サービス利用状況

施設名称 事業名称	地域生活支援センターグリーン		就労サポートセンターぴ～す		その他
	生活介護	生活訓練	就労継続支援A型	就労継続支援B型	
男性	2名	3名	1名	1名	0名
女性	3名	0名	0名	0名	0名
合計	5名	3名	1名	1名	0名

【10】会議及び研修

- 1、天草地域自立支援協議会
- 2、グループホーム職員会議
4月24日(火)、5月24日(木)、6月21日(木)、7月24日(火)、8月29日(水)、9月26日(水)、10月26日(月)、
11月29日(木)、12月28日(金)、1月18日(金)、2月22日(金)、3月25日(月)
- 3、全体会議
- 4、利用者会議:随時

【11】30年度の振り返り

30年度は、定員10名に対し10名満室でのスタートでしたが、4月と10月に自立しアパート生活を始める当事者があり2名退所、8月と3月に2名の新規入居、8月より長期の入院者もあり、稼働率が大きく変動しました。また、日中活動が休みの日の過ごし方に重点を置き、掃除・洗濯・布団干しの声掛けや季節感を感じて頂けるようなピクニックや外出、行事食の提供等を行った。次年度へ向けて、入居者が住みよいと思える環境を整備し、元気に日中活動へ行けるように職員一同支援していく。